

薬史学会通信

No.29 2000年2月

〒113-0032

東京都文京区弥生2-4-16

(財)学会誌刊行センター内

日本薬史学会事務局

Phone (03) 3817-5821

FAX (03) 3817-5830

日本薬史学会 2000(平成12)年度総会講演会のお知らせ

と き 2000(平成12)年4月8日(土)午後

と ころ 東京大学薬学部記念講堂(文京区本郷)

11:30～ 評議員会(別途御案内)

13:30～ 総 会

14:00～ 総会講演(入場無料・来聴歓迎・薬剤師集合研修認定制度対象)

「現代医療における和漢薬の意義」

—活きた知の遺産の歴史認識と発展に向けて—

千葉大学薬学部教授 渡辺 和夫 氏

「薬歴の誕生から現在の薬剤師業務の変遷」

—当分の間の謎と薬歴発展史—

日本薬剤師会会長 佐谷 圭一 氏

16:30～ 懇 親 会 於 学士会館分館(会費:3,000円)

2000(平成12)年度秋季講演会予告

日時・場所:11月25日(土)午後、大阪

特 別 講 演:日蘭交流400年を記念して両国医薬に関する話題(仮題)

九大文学部言語学科 W.ミヘル氏ほか

次号薬史学会通信をご参照下さい。

日本薬学会第120年会 (岐阜) プログラムについて

日本薬学会第120年会は2000年3月29～31日の間、岐阜市長良川右岸地帯で開催されますが、今回は従来とプログラム組み立てが変わったので、薬史学関係のテーマと日時・場所等につき表示しました。詳しくはファルマシア付録を参照して下さい。

シンポジウム10「20世紀の薬学」

未来会館 3階H会場…29日 9:30～12:30①

・製薬技術の発展と課題

内藤記念くすり博 三宅康夫

・医療と薬剤師

元名城大薬 二宮 英

・20世紀薬学の概観

日本薬史学会 山川浩司

一般学術発表「薬を理解する」

PD会場…………… 31日 15:00～17:00②

- ・薬学領域よりみた副腎髄質ホルモンの史的考察 日本薬史学会 末廣雅也

一般学術発表「薬を考える」

PE会場…………… 29日 10:00～12:00③

- ・近代日本医薬品産業の発達 その15
第二次世界大戦後における海外技術導入の変遷 大日本製薬 竹原 潤
山田久雄
日本薬史学会 山田光男
- ・「本草綱目啓蒙」に見出される盛岡南部藩特産の薬草と産業としての評価
弘前大病院薬 大久保正
菅原和信
- ・薬科大学・薬学部における大学闘争(1968～1970)の軌跡 星薬大 三澤美和
- ・落語の中のドリンク剤
東京海道病院 五位野正彦
東京薬大 宮本法子
日本薬史学会 川瀬 清

- ・山本榕室の野山草木通志に関する一古文書 薬草を学ぶ会 後藤尚夫

岐阜薬大 山口茂治

田中俊弘

- ・江戸安政期書版牛医書に登場する薬品類に関する研究 生野高 河野通知

関西情報 博多正嘉

柏原高 金石三義

宮井大輔

農芸高 畠山直哉

上宮太子高 郷上佳孝

畠山獣医科 畠山朋子

畠山光弘

一般学術発表「健康を守る」

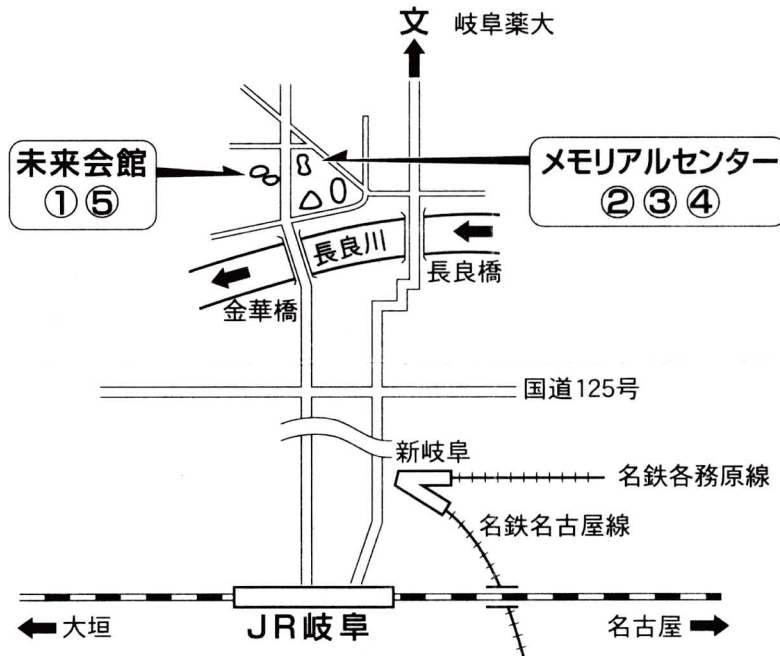
PE会場…………… 29日 15:00～17:00④

- ・明治期・薬育機関の変遷—薬舗主(薬剤師)の養成 日本薬史学会 山田光男
- ・薬膳に関する本草
黒竜江省中医管理局 藍 石
岐阜薬大 山口茂治
田中俊弘
- ・抗寄生虫作用の期待される中米グアテマラの伝承薬用植物群
北里大医 牧 純
伊藤洋一
北里大薬 児島 脩
北里大医 桑田正広
明海大歯 坂上 宏
サンカルロス大 カセレスA
九大医 多田 功

日本薬学会第120年会(岐阜)薬史学関係 時間帯・会場など早見表

日	時 刻 ・ 会 場
28	
29	9:30 ↓ シンポジウム ↓ H会場 ① 12:30 10:00 ↓ PF会場 ③ 12:00 15:00 ↓ PE会場 ④ 17:00
30	
31	12:30 ↓ PD会場 ② 14:30

2000年
特別企画 ⑤



シンポジウム「20世紀の薬学」① 年会ハイライト集より

今年は20世紀最終年と言うことで、日本の薬学がこの100年間に歩んできた道筋を顧み、来るべき世紀への方向を探ります。

明治30年代に始まる100年は、あらゆる科学分野で近代化が浸透し、経済の世界では地球を囲む資本主義の輪が完成した時代であります。治療医学の領域では、抗生物質や生物化学由来の医薬が登場し、すっかり内容が変わり、薬を使いこなす新たな技術の普及が必要とされるに至りました。

東京大学は日本の開国以来、あらゆる分野で指導的役割を果たしたわけですが、薬学の世界では、西欧で使われている薬物の国産化と、漢方薬中の化学成分の調査を主な課題とし、それ以外の医療課題には殆ど手を染めませんでした。言うなれば患者不在だったわけです。そして現実の医療に必要な研究は、むしろ民間で創意工夫を凝らして行われました。

このシンポジウムでは実例として、大学では重きを置かなかった「製剤技術」の研究が民間企業でこつこつと行われてきたこと、同じく大学に研究室すらなかった「医療薬学」に関する検討が、病院の薬局でひとつひとつ実行されてきたことについて報告を受け、次いで科学技術史の立場から総括的な見方を聞き、参加者一同で考えたいと思います。

2000年記念特別企画⑤

1. 「薬学の過去・現在・未来」テーマ展

3月28日～31日

県民文化ホール未来会館

入場無料

—過去—

日本における薬学の歴史を総括的に振り返るとともに、東海地区で開催される本年会に因み、愛知県犬山市出身の偉大な薬学者「下山順一郎」先生にスポットを当て、薬学創成期における先生の業績を顕彰する展示内容にする。

—現在—

近年、わが国で開発された医薬品で、世界的規模の売り上げ上位のものについて、その開発経緯、薬物の特徴などをわかりやすくまとめたパネルを展示する。

—未来—

遺伝子工学や細胞工学の進歩を受け、今後期待される医薬品や技術について展示する。

2. 「内藤記念くすり博物館」見学ツアー

3月29・30日 13:00出発予定

各日、200名定員

参加費1,000円(当日払い)

希望者は、「氏名・所属・連絡先・参加希望日」を記入し、往復ハガキまたはe-mail (gifu120@gifu-pu.ac.jp)で岐阜薬大内、第120年会組織委員会に申し込むこと。

入会のお誘い

時代の移り変わりの的確な把握に、歴史的考察は不可欠です。日本薬史学会はできるだけ多くの方のご参加を得て、厚みのある活動をして行きたく考えております。

また、機関誌「薬史学雑誌」への投稿を歓迎しておりますので、宜しく願いいたします。